

称号及び氏名 博士（臨床福祉学）家高 将明

学位記番号 甲 第7号

学位授与の日付 平成23年9月14日

学位申請論文名

『 高齢者デイサービスにおける生活支援に関する研究  
—今日におけるデイサービスの支援効果と実践課題についての検討— 』

学位申請論文審査委員会

主査 教授 浅野 仁

副査 教授 武田 建

副査 教授 太田 義弘

## I. 学位申請論文の内容要旨

本論文の目的は、社会福祉の視点から今日におけるデイサービスの支援について検討するとともに、デイサービスにおける支援過程の課題を明らかにし、その解決策を考察することである。

その目的を達成するために、本論文では4つの研究テーマを設定し、検証している。① 効果測定基準の設定、② 在宅生活の継続性の観点からデイサービスの支援効果の検証、③ 支援過程における実践上の現状と課題の検討、④ 支援者のおかれている環境の課題分析と対策。これら4つの研究テーマを分析考察している本論文は7章から構成されている。

I章では、本研究の目的と研究テーマについて説明し、さらに「社会福祉実践」及び「デイサービス」の概念整理をしている。II章では、数量化が可能な効果測定基準の設定を行うため、「QOL」及び「自己実現」について社会老年学の知見（サクセスフルエイジング）も参考にして検討し、「生活満足度尺度 K」がデイサービスにおける支援効果を測定する上で適切であることを確認する。

III章においては、デイサービスの専門的機能を明確にするために歴史的変遷と制度的観点からデイサービスに期待される機能を明らかにする。IV章は、在宅生活の継続の可能性についてデイサービスの支援効果を縦断的方法により分析している。その結果、デイサービスの利用により、在宅生活を継続するために必要な高次の活動能力を高めること、さらに利用者の生活満足度の低下を防止することが可能であることを検証する。

V章では、デイサービスの支援過程における課題を明らかにするための前提として、社会福祉実践における理論的枠組みについて検討している。近年、社

会福祉実践が専門家主導の支援から利用者と支援者が協働するパートナーシップとしての支援が重視されていることを踏まえ、エンパワーメントアプローチに基づく社会福祉実践の枠組みについて考察している。

Ⅵ章は、デイサービス職員等を対象として、前章における考察結果をもとに3つの仮説を設定して、支援過程の実践上の課題について検証する。3つの仮説は、① 通所介護計画作成過程における利用者の主体的参加、② 職員による利用者の生活全般にわたる支援、③ 利用者が意味あるものとして実感している職員の支援、である。生活満足感とソーシャルサポートの測定尺度を用いて分析した結果、①の仮説は棄却、②の仮説は支持、③のそれは棄却され、実践現場では、利用者は受身的な参加をしていること、及び職員による支援が利用者の自尊心を損なう可能性のある興味深い結論を得ている。

Ⅶ章においては、支援者がおかれている環境を含めたマクロ的観点から実践上の課題について検討している。マクロ的視点からは介護保険制度導入による準市場の拡大によりコスト削減が強化され、感情労働の重要性が軽視される傾向があることを明らかにする。その実践的課題を解決する方策のひとつとして、政策主体、支援者、事業者、研究者の協働関係に基づくマクロアプローチが不可欠であることを指摘する。

さいごに、本研究の課題について記述している。社会福祉実践が一人ひとりの利用者の実存性を実現することを重視することから、利用者個々の生活実態に基づく詳細な研究が今後必要であることを指摘している。

## Ⅱ. 学位申請論文審査結果の要旨

1. 本論文は、家高氏が高齢者デイサービスに数年間従事した現場経験から得られた問題意識が執筆の出発点となっている。したがって、研究は利用者に対するサービスの質の向上を目指した現実的で、有用な内容に終始している論文と評価する。
2. 本研究の評価できることのひとつは、社会福祉学にとどまらず社会老年学、社会学、経営学の分野の先行研究を広範囲にわたり、丹念に精査していることである。研究対象は高齢者デイサービスであるが、極めて汎用性のある研究内容、方法であることは高く評価できる。
3. 本論文に関連して、学会発表が4席、論文執筆（査読付）が4編の多くを数える。このような活発な研究成果の公表は、本研究が一定の社会的評価を得ている証左である。

4. さいごに、研究上の課題として、家高氏も記述していることであるが、研究方法が主として統計的手法に拠るものであることから、個々の利用者の実生活から分析する記述が不十分であったことは否めない。次の機会には、事例研究法による質的研究に取り組んでいくことを期待したい。

### Ⅲ. 最終試験結果の要旨

上記の学位申請論文審査結果の通り、審査委員会は全員一致で本学位申請論文を博士（臨床福祉学）の学位を受けるに値すると判定しました。

### Ⅳ. 公聴会の日時

2011年7月29日

### Ⅴ. 審査委員会の所見

本学位申請論文審査委員会は、本論文が高齢者デイサービスにおけるサービスの質に関して、新たな知見を提示した内容であり、博士学位に相応しいものと判断します。

以上